

めいわ社協だより

令和2年6月号

令和2年6月1日発行

社会福祉法人明和町社会福祉協議会
(明和の里・ありんこ)
三重県多気郡明和町大字馬之上917-1
TEL 0596-52-7056
FAX 0596-52-7057
<http://www.ma.mctv.ne.jp/~mei-skyo/>

北野「ささえあい」活動紹介(斎宮地区)

明和町のほぼ中央に位置する斎宮地区北野。昔からお住まいの人と新興住宅が入り混じるこの地区で、新たな有償ボランティア活動「ささえあい」が始まりました。これまで自分で出来ていた日常のちょっとした事が高齢等の為に難しくなった方に対して、朝のゴミ出しやペットの散歩、話し相手などを通して「地域で支え合おう」という活動です。今回は、代表の中瀬さんにこの活動を始めた経緯や思いをインタビューさせてもらいました。



北野では元々、老人クラブ「北野友楽クラブ」さんの活動が活発で、その会員数なんと100名!カラオケや麻雀をはじめとする11の同好会があり、拠点となっている北野公民館のスケジュールカレンダーは日替わり同好会の予定でビッシリです。また、高齢者だけでなく地域全体で楽しめる様にと、季節に応じた夏祭りやお餅作り等、会員の皆さんはお忙しい毎日をお過ごしです。

余談ですが、我が「社協」が開催する「社協夏まつり」でも、北野友楽クラブの皆さんには櫓の組立や着付・踊り手ボランティアさんとしてのご協力を頂くなど、心強い存在なのです!

そんな活発な北野の皆さんが有志で「ささえあい」活動を考え始めたきっかけは一昨年、社協が企画した各務原市への

視察見学に参加した事だそうです。

各務原市では北野友楽クラブさんの様なサロン活動を開催しているだけでなく、住民同士の助け合い活動も積極的に行っていました。その様子を目の当たりにした代表の中瀬さんは「北野でも友楽クラブの会員だけが集うのではなく、自治会の困っているみんなに向けて何か出来るのではないかと感じたそうです。

中瀬さんは友楽クラブの代表を務める傍ら、社協が昨年からはじめた支え合い活動「めいわサポーター」でもご活躍いただいております。そういったご縁もあってご相談をいただきながら有志のメンバー18名で組織化し、今年2月から「ささえあい」活動を始められました。

「ささえあい」活動のお手伝いメニューは冒頭に紹介したような簡易なご依頼(Aランク20分200円~)と庭木の伐採、トタンの修理、パソコンの設定等、専門技術の必要なご依頼(Bランク20分300円~)に分け受付を行っています。



友楽クラブの会員さんの中には、大工さんや電気関係の作業が得意な方などバラエティに富んだ方々がたくさんお見えで、こういった温かい気持ちをお持ちの皆さんが老人クラブ活動を通して、顔の見える関係でつながっていたからこそ実現できる活動だとインタビューを通じて強く感じました。

中瀬さんはこうおっしゃいます。「何もしない事ほど怖い事はありません。人と触れ合える場を地域に作り、それが認知症をはじめとする介護予防の一助になれば」と。困りごとを抱えている方は勿論の事、それを助けたいと思う人もまた、実はそういった方に支えられる「ささえあい」活動。

今後も明和町社会福祉協議会ではこの北野の「ささえあい」活動を応援していきたいと思っております。



基本理念 みんなの地域をみんなでつくる

～一人ひとりそれぞれに役割があり 生きがいがある地域社会の実現～

令和2年度事業実施計画

地域福祉活動 計画の推進

明和町・明和町社会福祉協議会合同で、地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定しました。今年で2年目となり、さらに推進してまいります。

<重点取り組み項目>

◎福祉団体がともに参加して、福祉体験教室を実施します。

町内の小学校や企業へ出向き、高齢者疑似体験をしたり、車いすを操作する体験や乗ってみる体験、アイマスクをつけて視覚障がいのある方の体験を実施します。障がいのある当事者の方も参加し、一緒にお話ししたりする事で、相手の気持ちを理解するきっかけになります。



◎お困りごとに合った生活支援サービスの開発や生活支援ボランティアを活性化します。

買い物、コミュニティカフェ、見守り、ゴミ出しや掃除といったコミュニティサービスを地域住民の支え合いによる仕組みを構築するため、生活支援サポーター「めいサポ」(ボランティア)を養成し、活躍できるように支援していきます。



◎福祉避難所訓練を実施し、支援が必要な方も一緒に防災訓練に参加できるよう取り組んでいきます。

大規模災害が発生した時、高齢者、障がい者、妊産婦などの災害弱者は一般の避難所では生活に支障をきたすことがあります。これらの方々に特別に配慮した「福祉避難所」として明和の里・ありんこでの訓練に、支援が必要な人も一緒に参加しやすい取り組みをおこないます。



◎子ども食堂(子どもの居場所)を各地区で開催します。

地域の大人が子どもに無料または定額で食堂を提供する取り組みです。地域の交流の場としての役割を担っていることも多くあります。5年間で各地区で1箇所以上での開催を目指します。現在、斎宮駅前「つどい子ども食堂」が開催されています。*ただし新型コロナウイルスの感染防止の為開催を中止している場合があります。



令和2年度 収支予算

(単位:千円)

